

令和4年度法務省委託事業

ハンセン病問題に関する  
「親と子のシンポジウム」

# 報 告 書

# 令和4年度法務省委託「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」実施完了報告

## 1 実施概要

- (1) テーマ： ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」
- (2) 日 時： 令和4年7月30日（土）午後1時30分～午後4時
- (3) 形 式： オンライン（リアルタイム）配信  
岡山コンベンションセンターレセプションホール  
（岡山県岡山市北区駅元町14番1号リットシティビル2階）をメイン会場として配信
- (4) 対象者： 一般市民 ※ 参加費無料
- (5) 主 催： 法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、岡山地方法務局、岡山県人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター
- (6) 後 援： 中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会、ハンセン病家族訴訟原告団、岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、瀬戸内市、瀬戸内市教育委員会、岡山県市長会、岡山県町村会、山陽新聞社、NHK岡山放送局、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、日本財団（順不同）
- (7) 内 容：

### 【第1部】

- 開会～主催者挨拶
- 動画上映「ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～」  
（令和2年度法務省委託） ※一部抜粋上映
- 基調講演  
中尾伸治（国立療養所長島愛生園入所者自治会会長）  
屋猛司（国立療養所邑久光明園入所者自治会会長）
- 動画上映
  - ・人権作文動画「ウイルスよりも怖いもの」（第40回全国中学生人権作文コンテスト・第40回大会記念賞受賞者 小西祥生）
  - ・第40回全国中学生人権作文コンテスト・メッセージ動画（第33回全国中学生人権作文コンテスト・法務大臣賞受賞者 後藤泉稀）
- パネルディスカッション
  - ・パネリスト  
小西祥生（第40回全国中学生人権作文コンテスト・第40回大会記念賞 受賞者）  
後藤泉稀（第33回全国中学生人権作文コンテスト・法務大臣賞 受賞者）  
森光玲雄（日本赤十字災害救護研究所心理社会的支援部門長（兼）諏訪赤十字病院臨床心理課長）  
中尾伸治（国立療養所長島愛生園入所者自治会会長）  
屋猛司（国立療養所邑久光明園入所者自治会会長）
  - ・コーディネーター  
坂元茂樹（公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長）

### 【第2部】

- ビデオメッセージ  
豎山勲（ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会事務局長）  
森和男（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所大島青松園入所者自治会会

長)

ハンセン病家族訴訟原告 代表 原告番号169番

● 閉会

2 目的

ハンセン病問題に関する正しい知識と理解は、いまだ十分とはいえず、ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見・差別は、今なお社会に根深く残っている。それにもかかわらず、我々は、このコロナ禍において、新たな感染症に対する思い込みや不安から生じる偏見・差別の問題に直面している。

そこで、ハンセン病問題に関わってこられた方々や当事者の方々の声を聴き、ハンセン病問題を決して風化させることなく、その正しい知識と理解を次の世代を担う人々に伝えていくとともに、同じ過ちを繰り返すことなく、偏見・差別のない社会を実現するためにはどうしたらよいか、親子で考えていくためのシンポジウムを開催する。

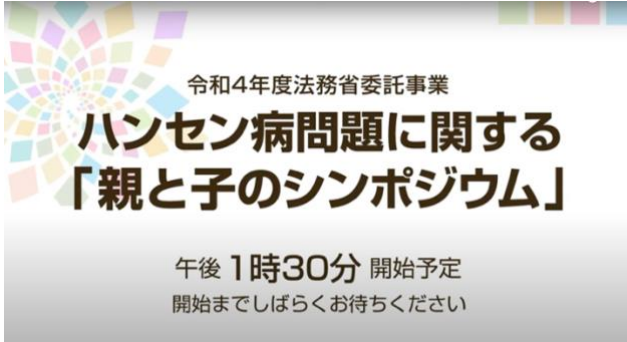
3 参加者数等

925人 (YouTube「ユニーク視聴者数」)

※参考：同「視聴回数」1,787回

同「最大同時視聴者数」461人

#### 4 配信の様子（画面イメージ）



ライブ配信前：案内



主催者挨拶：法務省



主催者挨拶：厚生労働省



主催者挨拶：文部科学省



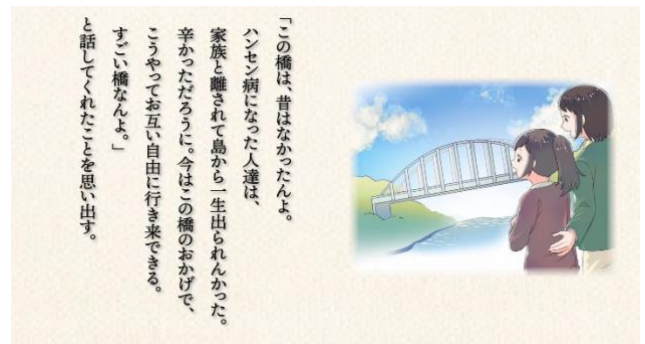
動画上映「ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～」



基調講演：中尾伸治（国立療養所長島愛生園入所者自治会会長）



基調講演：屋猛司（国立療養所邑久光明園入所者自治会会長）



人権作文動画「ウイルスよりも怖いもの」（第40回全国中学生人権作文コンテスト・第40回大会記念賞受賞者 小西祥生）



第40回全国中学生人権作文コンテスト・メッセージ動画（第33回全国中学生人権作文コンテスト・法務大臣賞受賞者 後藤泉稀）



パネリスト：小西祥生（第40回全国中学生人権作文コンテスト・第40回大会記念賞受賞者）



パネリスト：後藤泉稀（第33回全国中学生人権作文コンテスト・法務大臣賞受賞者）



パネリスト：森光玲雄（日本赤十字災害救護研究所心理社会的支援部門長（兼）諏訪赤十字病院臨床心理課長）



コーディネーター：坂元茂樹（（公財）人権教育啓発推進センター理事長）



ビデオメッセージ：豎山勲（ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会事務局長）



ハンセン病家族訴訟原告 代表

**原告番号169番**

ビデオメッセージ：森和男（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所大島青松園入所者自治会会長）

#### 別添

- ・当日配布資料（ダウンロード用プログラム）
- ・アンケート集計結果
- ・採録記事（紙面イメージ）

#### 5 オンライン（アーカイブ配信）

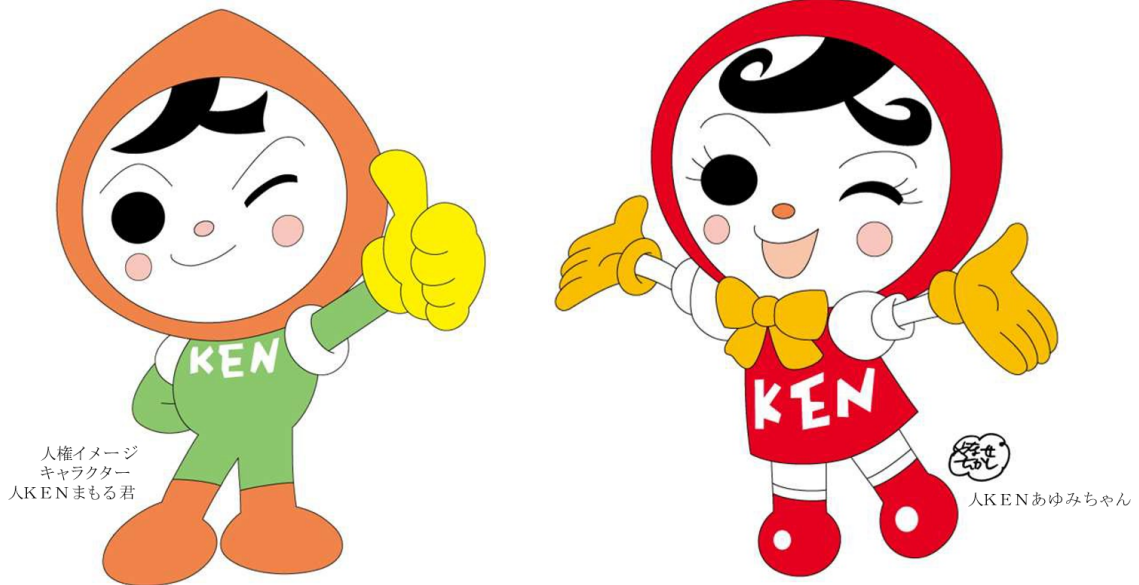
本シンポジウム終了後、YouTube 人権チャンネルにおいて、オンライン（アーカイブ）配信を実施。（令和4年7月30日（土）の公開から1年間限定）

2022.7.30 令和4年度「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」

<https://youtu.be/DzveU0Xrloc>

令和4年度法務省委託

# ハンセン病問題に関する 「親と子のシンポジウム」



## ■日時

令和4年7月30日（土） 午後1時30分～午後4時00分（予定）

※オンライン配信

## ■主催

法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、岡山地方法務局、  
岡山県人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター

## ■後援

中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会、ハンセン病家族訴訟原告団、岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、瀬戸内市、瀬戸内市教育委員会、岡山県市長会、岡山県町村会、山陽新聞社、NHK岡山放送局、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、日本財団(順不同)

## 目 次

● タイムスケジュール-----	2
● 人権啓発動画の御案内	
○ 「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」-----	4
● 登壇者の御紹介	
[基調講演・パネルディスカッション]	
○ 中尾 伸治さん-----	5
○ 屋 猛司さん-----	6
[パネルディスカッション]	
○ 小西 祥生さん-----	7
○ 後藤 泉稀さん-----	8
○ 森光 玲雄さん-----	9
○ 坂元 茂樹-----	11
[ビデオメッセージ]	
○ 豎山 勲さん-----	13
○ 森 和男さん-----	15
○ ハンセン病家族訴訟原告 代表 原告番号 169 番 -----	16
● YouTube での人権啓発関連映像の配信について-----	17
● 人権ライブラリーの御案内-----	18

### 本シンポジウムの目的

ハンセン病問題に関する正しい知識と理解は、いまだ十分とはいえず、ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見・差別は、今なお社会に根深く残っています。それにもかかわらず、私たちは、このコロナ禍において、新たな感染症に対する思い込みや不安から生じる偏見・差別の問題に直面しています。

そこで、ハンセン病問題に関わってこられた方々や当事者の方々の声を聴き、ハンセン病問題を決して風化させることなく、その正しい知識と理解を次の世代を担う人々に伝えていくとともに、同じ過ちを繰り返すことなく、偏見・差別のない社会を実現するためにはどうしたらよいか、親子で考えていくためのシンポジウムを開催します。



## タイムスケジュール

### 【第1部】

- 13:30~13:40 **開会・主催者挨拶**
- 13:40~13:50 **動画上映①**  
人権啓発動画  
「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」から  
※一部抜粋（志村 康さんのエピソード）
- 13:50~14:30 **基調講演**
- 講演1  
中尾 伸治さん（国立療養所長島愛生園入所者自治会会長）
  - 講演2  
屋 猛司さん（国立療養所邑久光明園入所者自治会会長）
- 14:30~14:40 **動画上映②**
- 人権作文動画「ウイルスよりも怖いもの」  
（第40回全国中学生人権作文コンテスト・  
第40回大会記念賞受賞者 小西 祥生さん）
  - 第40回全国中学生人権作文コンテスト・メッセージ動画  
（第33回全国中学生人文作文コンテスト・法務大臣賞受賞者  
後藤 泉稀さん）
- 14:40~15:30 **パネルディスカッション**
- パネリスト
    - 1 小西 祥生さん（第40回全国中学生人権作文コンテスト・  
第40回大会記念賞受賞者）
    - 2 後藤 泉稀さん（第33回全国中学生人権作文コンテスト・  
法務大臣賞受賞者）
    - 3 森光 玲雄さん（日本赤十字災害救護研究所心理社会的支援  
部門長（兼）諏訪赤十字病院臨床心理課長）
    - 4 中尾 伸治さん（国立療養所長島愛生園入所者自治会会長）
    - 5 屋 猛司さん（国立療養所邑久光明園入所者自治会会長）
  - コーディネーター  
坂元 茂樹（公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長）

【第2部】

15:30~16:00

ビデオメッセージ

豎山 勲さん（ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会  
事務局長）

森 和男さん（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所  
大島青松園入所者自治会会長）

ハンセン病家族訴訟原告 代表 原告番号 169 番

16:00

閉会

- 本シンポジウム終了後、アンケートへの御協力をお願いいたします。

<https://forms.gle/bocaFfB4RU3DAbDM7>（Web アンケートフォーム）



# [ 人権啓発動画の御案内 ]

## 「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」

ハンセン病問題に関する理解を深め、偏見や差別のない社会の実現について考えるための人権啓発動画です。

隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化し、国立ハンセン病資料館学芸員による解説とともに収録しています。

\*本シンポジウムでは、“ハンセン病元患者 志村 康さんのエピソード” を上映



YouTube「MOJ（法務省）チャンネル」で全編視聴可能  
[https://youtu.be/gPH5b\\_CDwto](https://youtu.be/gPH5b_CDwto)

# [ 基調講演・パネルディスカッション ]

なかお しんじ  
中尾 伸治

国立療養所長島愛生園入所者自治会会長



## 【略歴】

昭和23年6月	14歳で愛生園に入園
昭和27年～28年	園内作業に就職
昭和29年～30年	長島愛生園入所者自治会 書記
昭和39年	自治会執行委員 事業委員長
昭和56年～60年	自治会執行委員 医療委員長 自治会執行委員 総務委員長
平成12年～13年	自治会副会長
平成16年～20年	自治会副会長
平成21年～	自治会会長 現在に至る

# [ 基調講演・パネルディスカッション ]

おく たけし  
屋 猛司

国立療養所邑久光明園入所者自治会会長

## 【略歴】

昭和49年	大阪大学病院でハンセン病と診断され邑久光明園に入所
平成 5年	自治会活動に携わる
平成18年～	邑久光明園自治会会長を務め現在に至る

# [ パネルディスカッション ]

こにし さつき  
小西 祥生

第 40 回全国中学生人権作文コンテスト・第 40 回大会記念賞 受賞者

# [ パネルディスカッション ]

ごとう みずき  
後藤 泉稀

第 33 回全国中学生人権作文コンテスト・法務大臣賞 受賞者

# [ パネルディスカッション ]

もりみつ れ お  
**森光 玲雄**

日本赤十字災害救護研究所心理社会的支援部門長  
(兼) 諏訪赤十字病院臨床心理課長



## 【略歴】

日本赤十字社が海外に派遣した最初の臨床心理士。福祉先進国のデンマークやノルウェーで緊急時に体の健康と同時に心理・社会面のウェルビーイングをもいたわる援助のあり方を学び、東日本大震災、ネパール、フィリピンなど、国内外の災害・紛争の現場で「心のケア」にあたる。

- 2013年 日本人臨床心理士として初めて、  
国際赤十字・赤新月社連盟心理社会センター（コペンハーゲン）の  
心のケア登録専門家を拝命
- 2015年～ 日本政府緊急人道支援補正予算事業  
2017年 「ウクライナ紛争帰還兵および避難民に対する  
社会復帰支援プロジェクト」で、事業モニタリングリーダーを担当
- 2017年 日本財団国際フェロー6期生に選出される
- 2018年 米国サウスダコタ大学災害時メンタルヘルス研究所にて  
災害メンタルヘルスコース修了
- 2019年 英国オックスフォードブルックス大学大学院にて、  
ウクライナ紛争避難民の心的外傷後成長をテーマに  
人道支援学（開発学および緊急支援学）修士号を取得



2020年 帰国後、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い日本赤十字社の新型コロナ対策本部のアドバイザーに。ウイルスがもたらす「3つの感染症」概念を考案し、「コロナ3つの顔」ガイド（日本赤十字社）や「ストップコロナ差別キャンペーン」の立ち上げに尽力。

# [ パネルディスカッション ]

さかもと しげき  
坂元 茂樹

公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長  
公益財団法人世界人権問題研究センター  
理事長兼所長  
神戸大学名誉教授  
元国連人権理事会諮問委員会委員



(ハンセン病患者・回復者及びその家族に対する差別撤廃のための原則とガイドラインの作成者)

## 【略歴】

昭和53年4月～昭和54年3月	琉球大学法学部助手
昭和54年4月～昭和58年3月	琉球大学法学部講師
昭和58年4月～平成 3年3月	琉球大学法学部助教授
平成 3年4月～平成15年3月	関西大学法学部教授
平成13年4月～平成15年3月	関西大学国際交流センター所長
平成15年4月～平成25年9月	神戸大学大学院法学研究科教授
平成20年6月	「ハンセン病差別撤廃決議」に基づき、 人権理事会諮問委員会において、 ハンセン病差別撤廃を目的とする原則と ガイドライン（P&G）の作成を担当
平成25年10月～令和3年3月	同志社大学法学部教授
令和元年7月～現在	公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長
令和4年7月～現在	公益財団法人世界人権問題研究センター理事長 兼所長

【学会・社会等の活動】

平成11年～平成12年	みなみまぐろ国際仲裁裁判事件 (豪州・NZ 対日本) 日本政府代表団顧問
平成12年～平成21年	国際人権法学会理事
平成18年～平成21年	同理事長
平成14年～令和元年	世界法学会理事
平成19年～平成24年	国家公務員I種試験委員(法律職)
平成20年～平成25年	国連人権理事会諮問委員会委員
平成21年～平成23年	アジア国際法学会日本協会代表理事
平成21年～現在	日本海洋法研究会会長
平成24年～令和2年	海洋政策学会理事(学術委員長)
平成26年～平成28年	一般財団法人国際法学会代表理事
平成29年～令和3年	司法試験考査委員
令和2年～現在	日本海洋政策学会会長

【主な著書・論文】

- 「国際立法の最前線」(編著・有信堂、平成21年)
- 「条約法の理論と実際」(単著・東信堂、平成16年)
- 「人権条約の解釈と適用」(単著・信山社、平成29年)

# [ ビデオメッセージ ]

たてやま いさお  
**豎山 勲**



**ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会事務局長**

## 【略歴】

- |            |  |
|------------|--|
| 昭和37年9月5日  | 国立らい療養所星塚敬愛園に強制入所。   |
| 昭和39年4月    | 国立療養所長島愛生園に転園。   |
| 昭和42年      | 出身園である敬愛園に転入所し、その後、敬愛園自治会活動を続ける。   |
| 平成8年4月1日   | 1996年の「らい予防法」廃止に関する諸問題に対し、個人として活動を始める。   |
| 平成8年5月     | MBCTV「どーんと鹿児島」星塚人間回復の声～らい予防法廃止が問いかけるもの等に出演。その後、TV(筑紫哲也)ニユース23を始め、TV・新聞・ラジオ・雑誌等に出演。 |
| 平成10年7月31日 | 熊本地裁に「らい予防法」違憲国賠訴訟を提起。原告13名(第一次)原告団を結成し西日本原告団事務局長を務める。                             |
| 平成13年4月14日 | 全国原告団協議会設立。副会長。  |
| 平成13年5月11日 | 判決。原告が完全勝訴し、同年5月23日、政府控訴断念、熊本地裁判決が確定。  |
| 平成16年5月26日 | 国立療養所星塚敬愛園退所。社会復帰。   |

### 【社会活動】

ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会事務局長  
ハンセン病問題対策協議会・全国統一交渉団  
ハンセン病問題に関する検証会議の提言に基づく再発防止検討会委員  
全国退所者連絡会(全退連)相談役  
ハンセン病家族訴訟原告団 顧問  
らい予防法違憲国家賠償請求訴訟西日本原告団事務局長。  
鹿児島県ハンセン病療養所退所者の会代表  
NPO 法人「共に歩む会」理事  
前ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会副会長  
元国立療養所星塚敬愛園自治会副会長等  
その他、「再発防止検討会」の委員等、国設置の委員会の委員を複数務めている。  
1998年より講演活動を始め、講演回数1000回以上。  
現在、ハンセン病問題の全面解決へ向けて国との交渉の任にあたる。

### 【絵本】

「時の響きて」・・・絵本のモデル。福安かずこ原作、天台宗より出版。  
天台宗人権啓発公開講座をはじめ、各種研修会で利用。

### 【歌】

「時の響きて」・・・歌のモデル。  
北九州在住の人権バンド、願児我楽夢（がんじがらめ）が作詞作曲。

# [ ビデオメッセージ ]

もり かずお  
**森 和男**



全国ハンセン病療養所入所者協議会会長  
国立療養所大島青松園入所者自治会会長

## 【略歴】

昭和15年 6月	徳島県鳴門市生まれ
昭和24年11月	国立療養所大島青松園に姉と二人で入所
昭和31年 4月	岡山県立邑久高校新良田教室へ入学
昭和35年 3月	同校卒業

# [ ビデオメッセージ ]

ハンセン病家族訴訟原告 代表 原告番号  
169番

〔YouTube での人権啓発関連映像の配信について〕

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）の「人権チャンネル」と「法務省チャンネル」では、人権について理解していただくための映像を公開しています。

<https://www.youtube.com/jinkenchannel>

人権チャンネル

検索



【STOP！コロナ差別】



ピコ太郎さん（シンガーソングライター）



白本彩奈さん（女優）

法務省チャンネル

検索



<https://www.youtube.com/MOJchannel>



STOP！コロナ差別～差別や偏見を思いやりやエールに！～



STOP！コロナ差別 <尾身先生の気づき喚起動画>編



法務省人権擁護局「STOP！コロナ差別」特設サイト

[https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02\\_00022.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02_00022.html)

〔「STOP！コロナ差別」座談会の内容公開について〕

「コロナ差別」が生まれるメカニズムを多様な観点から考察するとともに、社会や人々がどう立ち向かうべきか、座談会を行いました。広く内容を公開しています。

## 新型コロナウイルス感染症と人権に関する座談会

### STOP! コロナ差別

～差別や偏見を思いやりやエールに！～

(コーディネーター) 坂元 茂樹  
公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長

(パネリスト) 森光 玲雄さん  
臨床心理士

(パネリスト) 磯野 真穂さん  
文化人類学者・医療人類学者

(パネリスト) 増田 コリヤさん  
ジャーナリスト

特別採録

- 「採録記事」と「発言録」で議論内容を「読む!」
- 感染を経験した住吉美紀さんのラジオ番組トークを「聞く!」
- 無料貸し出しの収録DVDで座談会を「見る!」

法務省・全国人権擁護委員連合会

こちらからアクセス



<https://www.jinken-library.jp/corona2020/>



[ 人権ライブラリーの御案内 ]



人権ライブラリーでは、およそ 16,000 冊の国内外の人権関連図書を始め、映像資料 (DVD、VHS)、紙芝居、展示用パネル、全国の地方公共団体が発行する啓発資料などを所蔵し、閲覧・貸出しを行っています。

これらの啓発資料は、郵送等による貸出しを行っており、遠方の方も御利用いただけます。また、無料の貸会議室 (多目的スペース) もございます。ぜひ、御利用ください。



人権ライブラリー

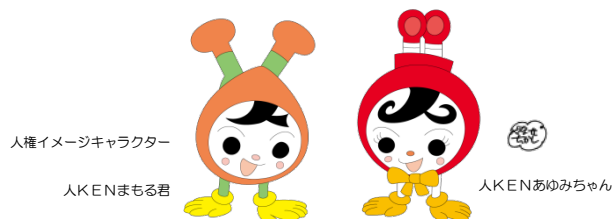
検索

<https://www.jinken-library.jp>



〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F  
TEL 03-5777-1919 / FAX 03-5777-1954  
Eメール library@jinken.or.jp

※ 公益財団法人人権教育啓発推進センター併設



人権イメージキャラクター人KEN まもる君と人KEN あゆみちゃんは、漫画家やなせたかしさんのデザインにより誕生しました。2人とも、前髪が「人」の文字、胸に「KEN」のロゴで、「人権」を表しています。人権が尊重される社会の実現に向けて、全国各地の人権啓発活動で活躍しています。

人権を侵害されていると感じたら…

法務局・地方法務局、その支局に気軽に御相談ください

みんなの人権 1 1 0 番		0 5 7 0 - 0 0 3 - 1 1 0
女性の人権ホットライン		0 5 7 0 - 0 7 0 - 8 1 0
子どもの人権 1 1 0 番		0 1 2 0 - 0 0 7 - 1 1 0
外国語人権相談ダイヤル		0 5 7 0 - 0 9 0 9 1 1

令和 4 年度法務省委託

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

公益財団法人人権教育啓発推進センター

「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」事務局

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F

TEL 03-5777-1802 (代表) / FAX 03-5777-1803

ウェブサイト <http://www.jinken.or.jp>

 @Jinken\_Center

YouTube 「人権チャンネル」 <https://www.youtube.com/jinkenchannel>

YouTube 「法務省チャンネル」 <https://www.youtube.com/MOJchannel>

人権ライブラリー <https://www.jinken-library.jp>

※ 人権教育啓発推進センター併設

法務省人権擁護局 <https://www.moj.go.jp/JINKEN/>



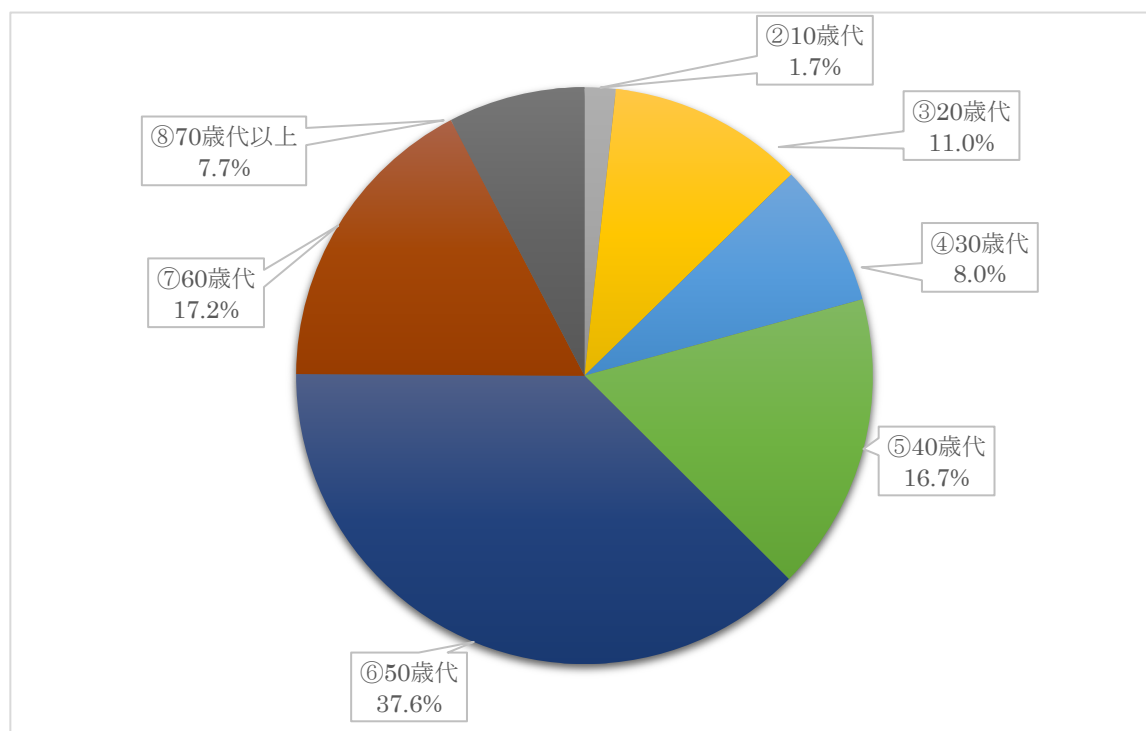
法務省人権擁護局で検索！

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」 参加者アンケート集計結果

(注) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため合計は必ずしも 100 とは限らない。

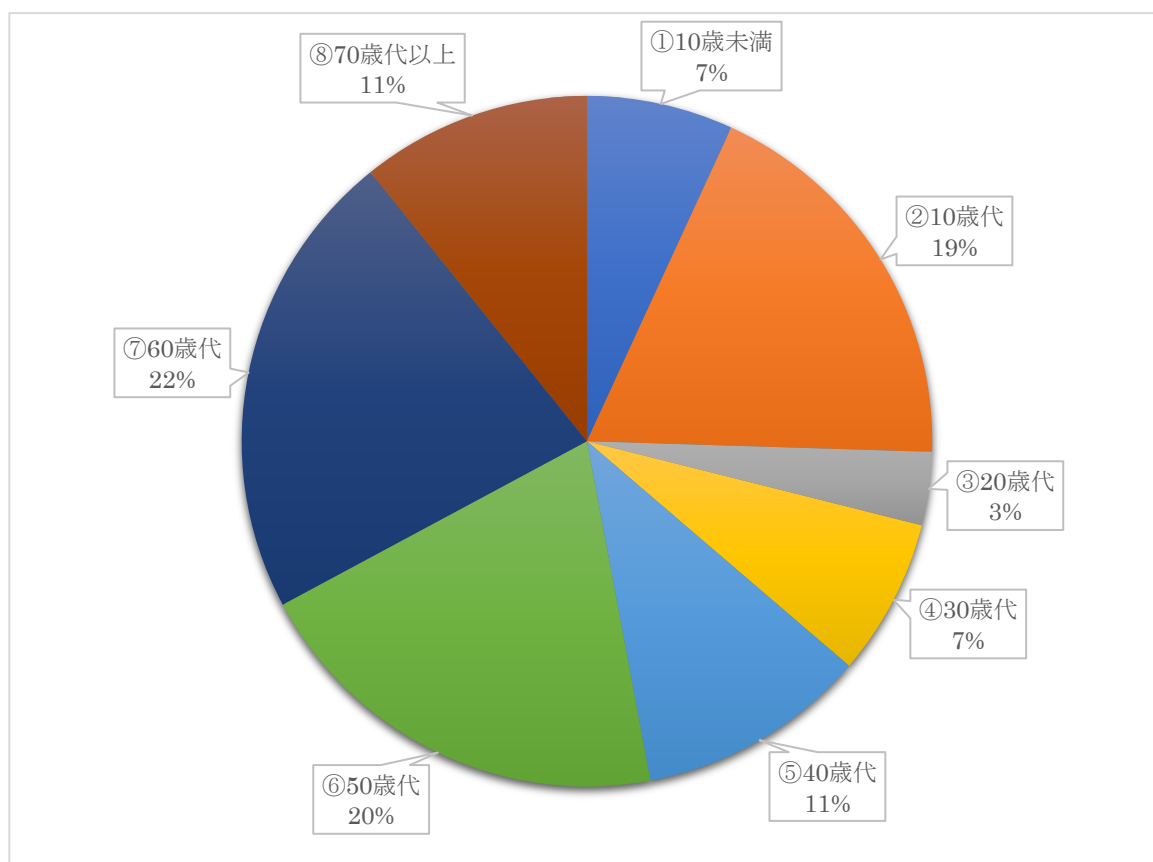
1-1-1.ご自身の年齢について、当てはまるものを選んでください。

1	10歳未満	0人
2	10歳代	10人
3	20歳代	63人
4	30歳代	46人
5	40歳代	96人
6	50歳代	216人
7	60歳代	99人
8	70歳代以上	44人
	無回答	0人
	計	574人



1-1-2.複数人で視聴された場合は年齢の欄にそれぞれの人数を選択してください  
(ご自身は、人数に含めないでください。)

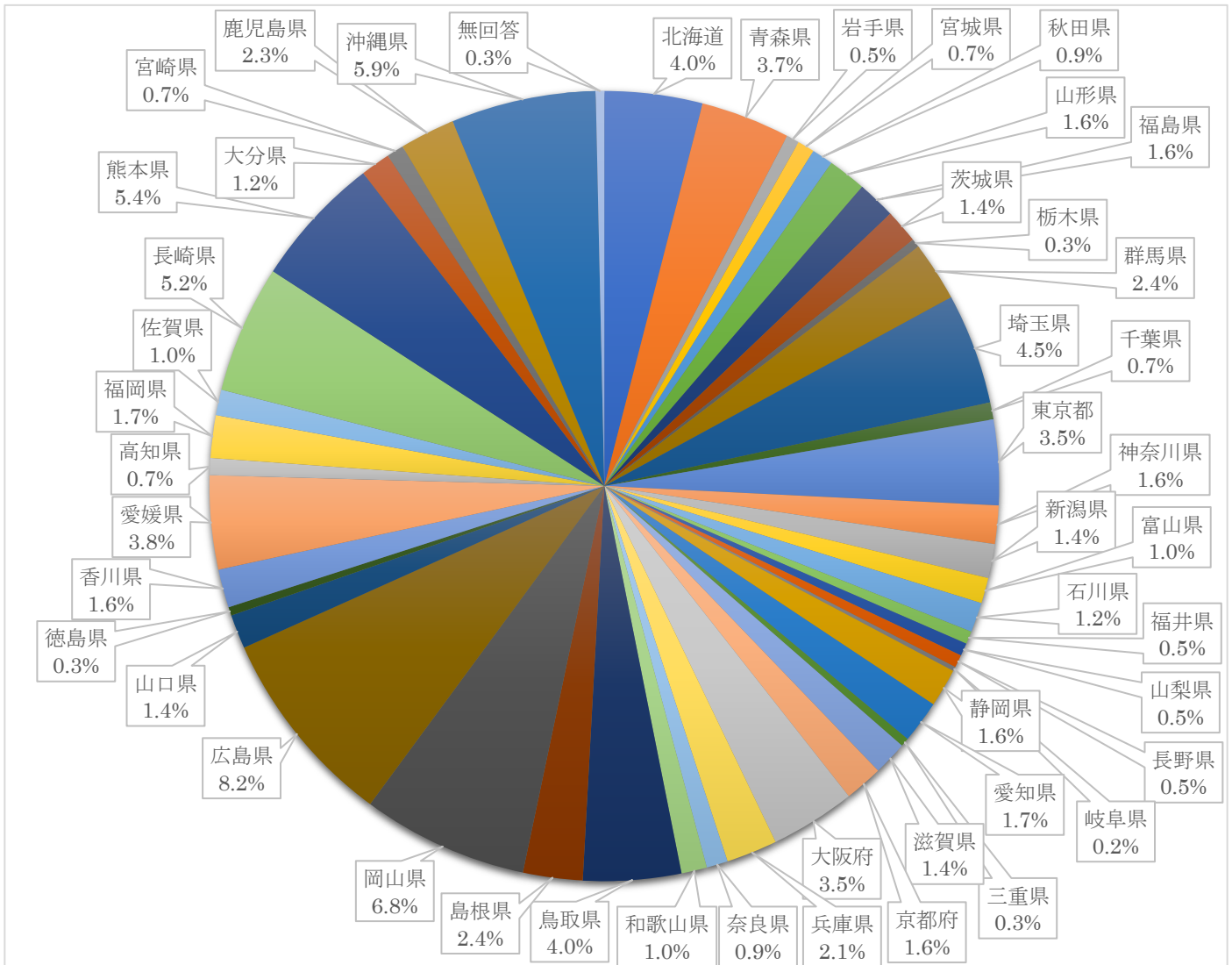
1	10歳未満	14人
2	10歳代	38人
3	20歳代	7人
4	30歳代	15人
5	40歳代	22人
6	50歳代	41人
7	60歳代	45人
8	70歳代以上	22人
	計	204人



1-2.ご自身の居住地について、当てはまるものを選んでください。

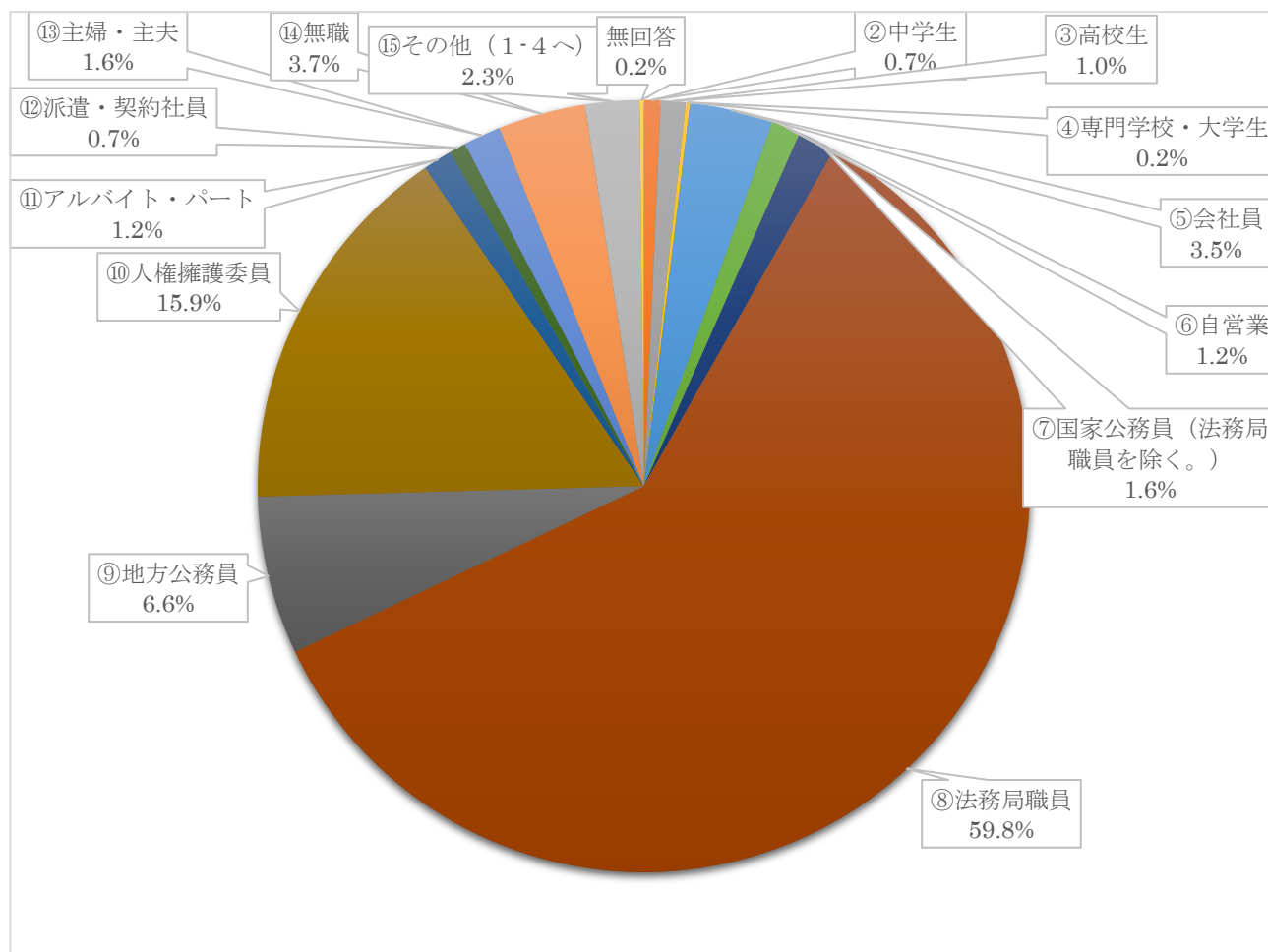
1	北海道	23人
2	青森県	21人
3	岩手県	3人
4	宮城県	4人
5	秋田県	5人
6	山形県	9人
7	福島県	9人
8	茨城県	8人
9	栃木県	2人
10	群馬県	14人
11	埼玉県	26人
12	千葉県	4人
13	東京都	20人
14	神奈川県	9人
15	新潟県	8人
16	富山県	6人
17	石川県	7人
18	福井県	3人
19	山梨県	3人
20	長野県	3人
21	岐阜県	1人
22	静岡県	9人
23	愛知県	10人
24	三重県	2人
25	滋賀県	8人
26	京都府	9人
27	大阪府	20人
28	兵庫県	12人
29	奈良県	5人
30	和歌山県	6人
31	鳥取県	23人
32	島根県	14人
33	岡山県	39人
34	広島県	47人
35	山口県	8人
36	徳島県	2人
37	香川県	9人

38	愛媛県	22人
39	高知県	4人
40	福岡県	10人
41	佐賀県	6人
42	長崎県	30人
43	熊本県	31人
44	大分県	7人
45	宮崎県	4人
46	鹿児島県	13人
47	沖縄県	34人
48	その他	0人
	無回答	2人
	計	574人



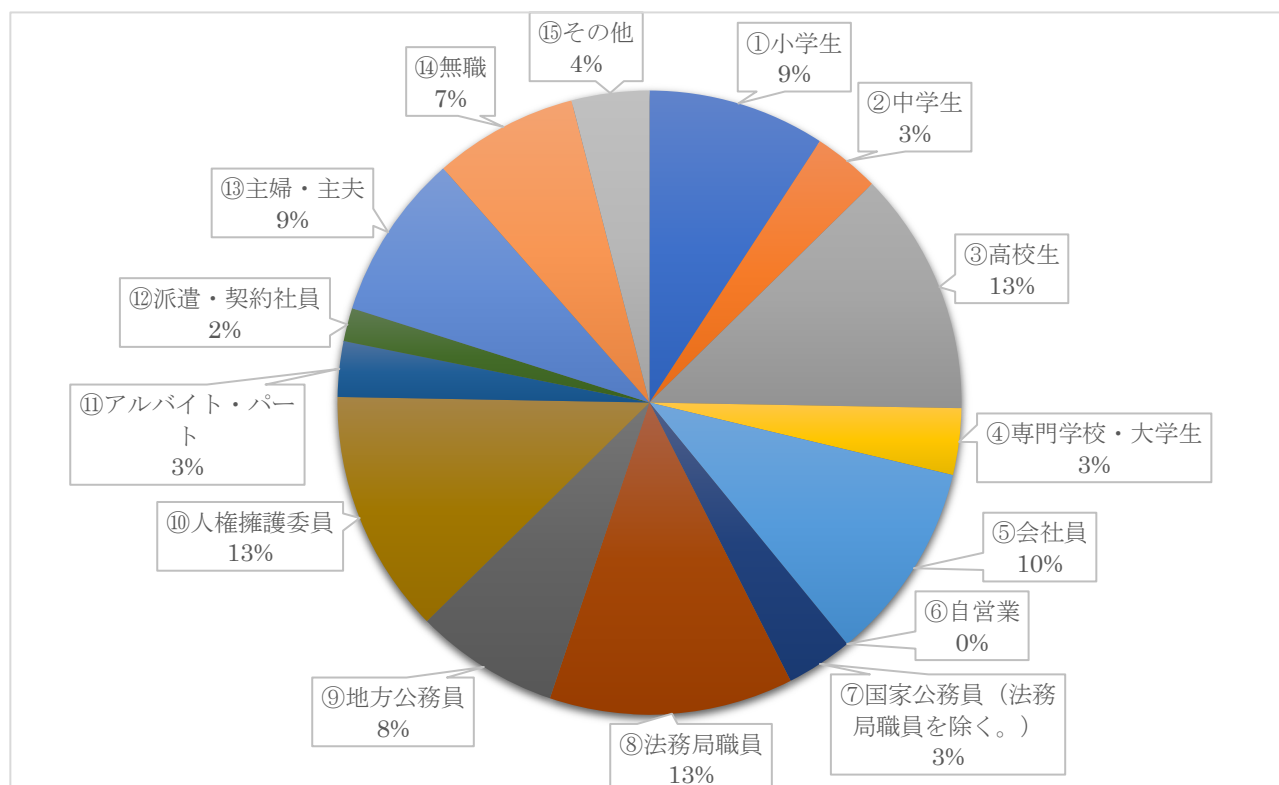
1-3.ご自身の職業等について、当てはまるものを選んでください。

1	小学生	0人
2	中学生	4人
3	高校生	6人
4	専門学校・大学生	1人
5	会社員	20人
6	自営業	7人
7	国家公務員（法務局職員を除く。）	9人
8	法務局職員	343人
9	地方公務員	38人
10	人権擁護委員	91人
11	アルバイト・パート	7人
12	派遣・契約社員	4人
13	主婦・主夫	9人
14	無職	21人
15	その他	13人
	無回答	1人
	計	574人



1-5.複数人で視聴された場合は職業等の欄にそれぞれの人数を選択してください  
 (ご自身は、人数に含めないでください。)

1	小学生	16人
2	中学生	6人
3	高校生	22人
4	専門学校・大学生	6人
5	会社員	18人
6	自営業	0人
7	国家公務員（法務局職員を除く。）	6人
8	法務局職員	22人
9	地方公務員	13人
10	人権擁護委員	22人
11	アルバイト・パート	5人
12	派遣・契約社員	3人
13	主婦・主夫	15人
14	無職	13人
15	その他	7人
	計	174人

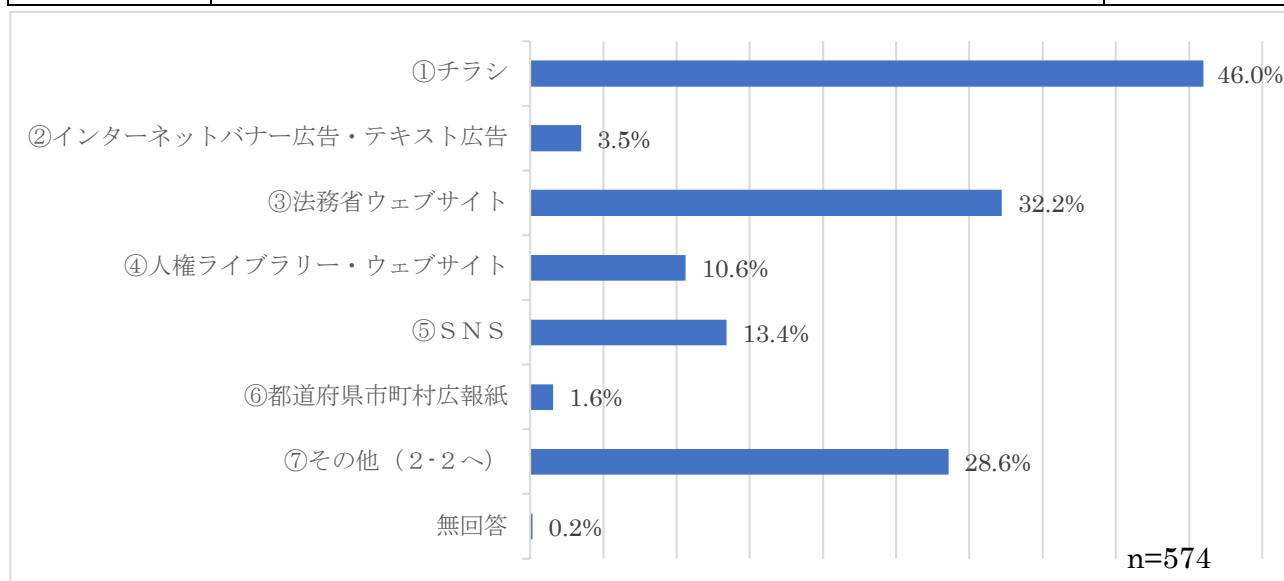




2-1. 「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」をどのようにして知りましたか。

(複数回答可)

1	① チラシ	264人
2	② インターネットバナー広告・テキスト広告	20人
3	③ 法務省ウェブサイト	185人
4	④ 人権ライブラリー・ウェブサイト	61人
5	⑤ SNS	77人
6	⑥ 都道府県市町村広報紙	9人
7	⑦ その他	164人
	無回答	1人
	計	781人

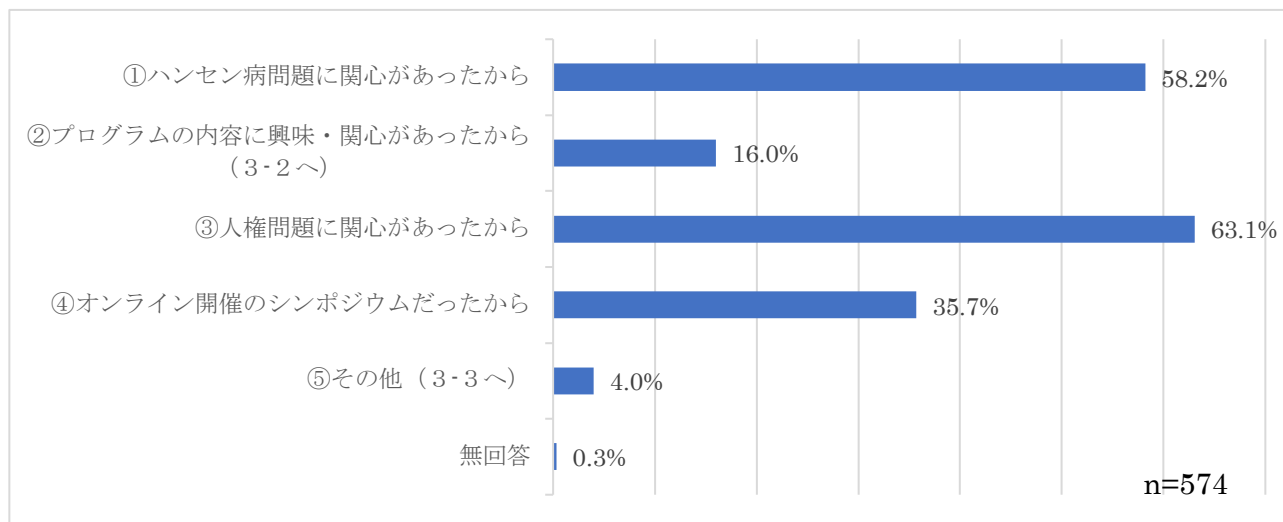


n = 574

※ n (=回答者数) に対する割合

3-1.このシンポジウムを視聴しようと思ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

1	① ハンセン病問題に関心があったから	334 人
2	② プログラムの内容に興味・関心があったから (3-2へ)	92 人
3	③ 人権問題に関心があったから	362 人
4	④ オンライン開催のシンポジウムだったから	205 人
5	⑤ その他	23 人
	無回答	2 人
	計	1018 人

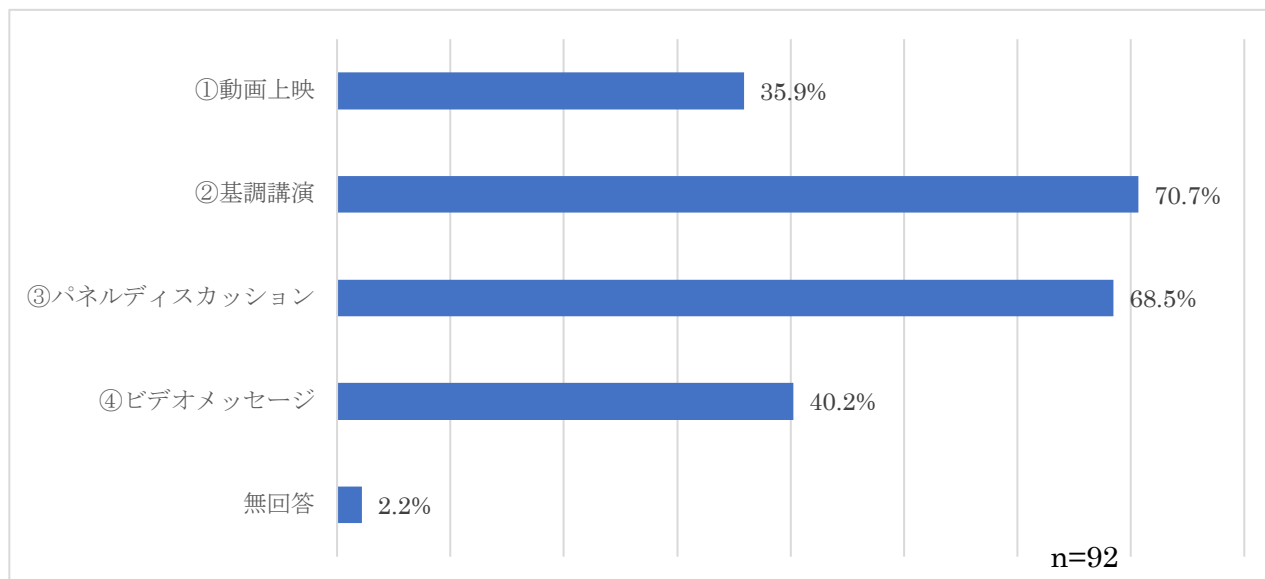


n = 574

※ n (=回答者数) に対する割合

3-2.「3-1」で「②プログラムの内容に興味・関心があったから」とお答えいただいた方に伺います。具体的にどのプログラムに興味・関心があったかお聞かせください。(複数回答可)

1	① 動画上映	33人
2	② 基調講演	65人
3	③ パネルディスカッション	63人
4	④ ビデオメッセージ	37人
	無回答	2人
	計	200人

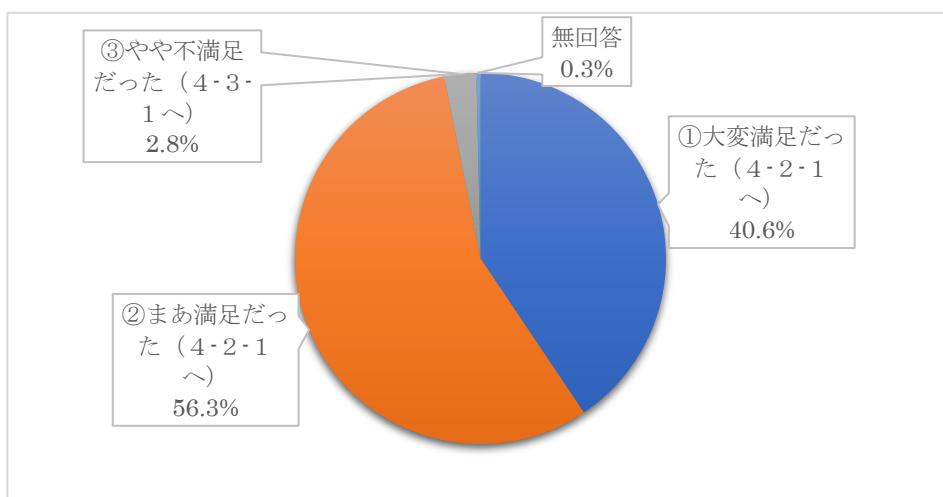


n = 92

※ n (=回答者数) に対する割合

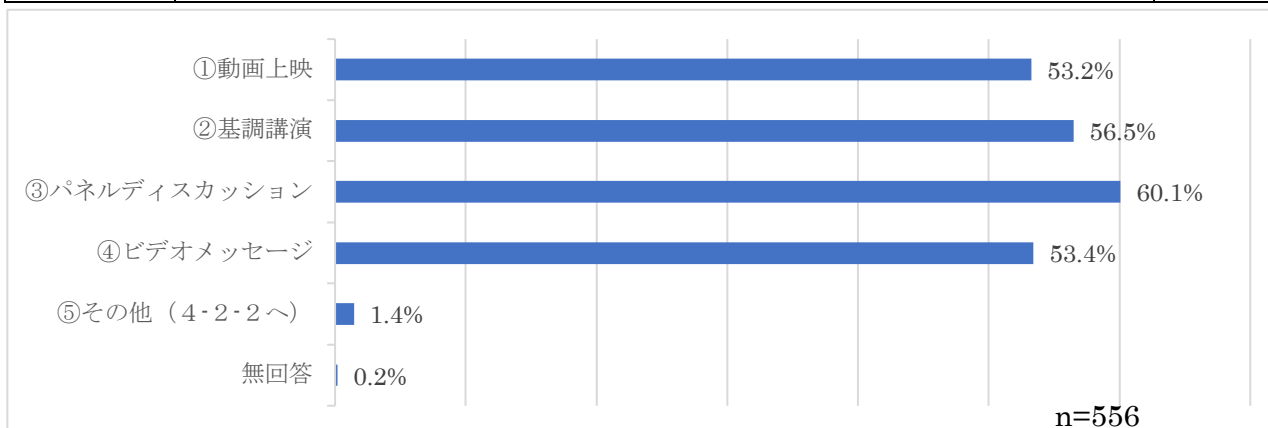
4-1. 今回のシンポジウムは全体として満足のいくものでしたか。

1	① 大変満足だった	233 人
2	② まあ満足だった	323 人
3	③ やや不満足だった	16 人
4	④ 大変不満足だった	0 人
	無回答	2 人
	計	574 人



4-2-1. 「4-1」で「①大変満足だった」又は「②まあ満足だった」とお答えいただいた方に伺います。具体的にどの点がよかったかお聞かせください。(複数回答可)

1	① 動画上映	296 人
2	② 基調講演	314 人
3	③ パネルディスカッション	334 人
4	④ ビデオメッセージ	297 人
5	⑤ その他 (4-2-2 へ)	8 人
	無回答	1 人
	計	1250 人

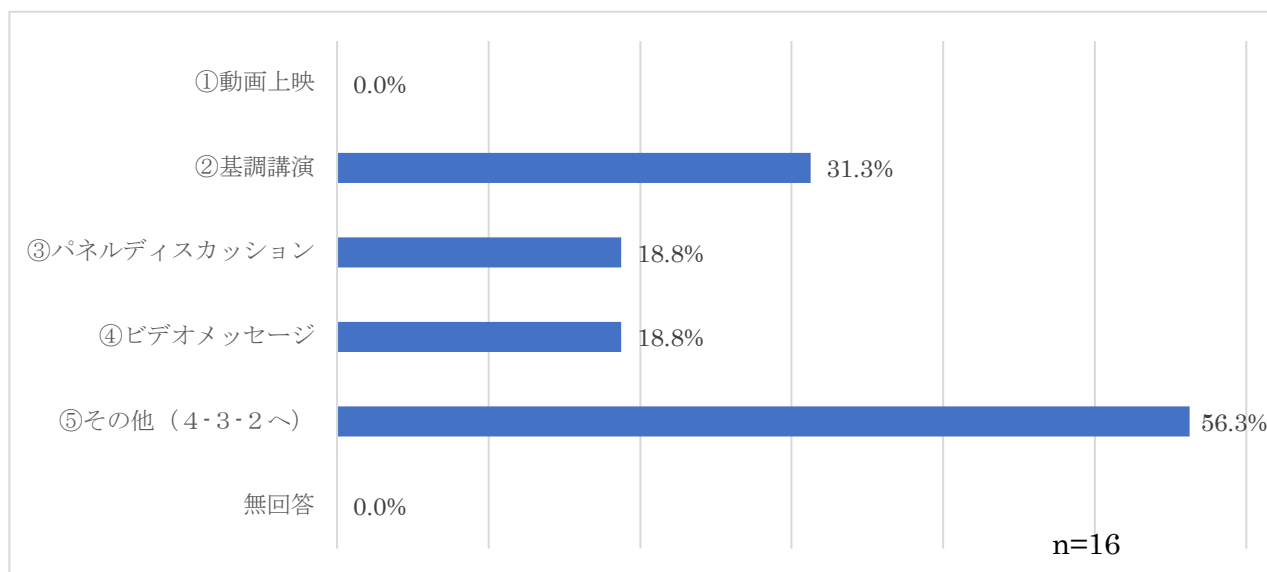


n = 556

※ n (=回答者数) に対する割合

4-3-1.「4-1」で「③やや不満足だった」又は「④大変不満足だった」とお答えいただいた方に伺います。具体的にどの点がよくなかったかお聞かせください。(複数回答可)

1	① 動画上映	0人
2	② 基調講演	5人
3	③ パネルディスカッション	3人
4	④ ビデオメッセージ	3人
	⑤ その他	9人
	無回答	0人
	計	20人

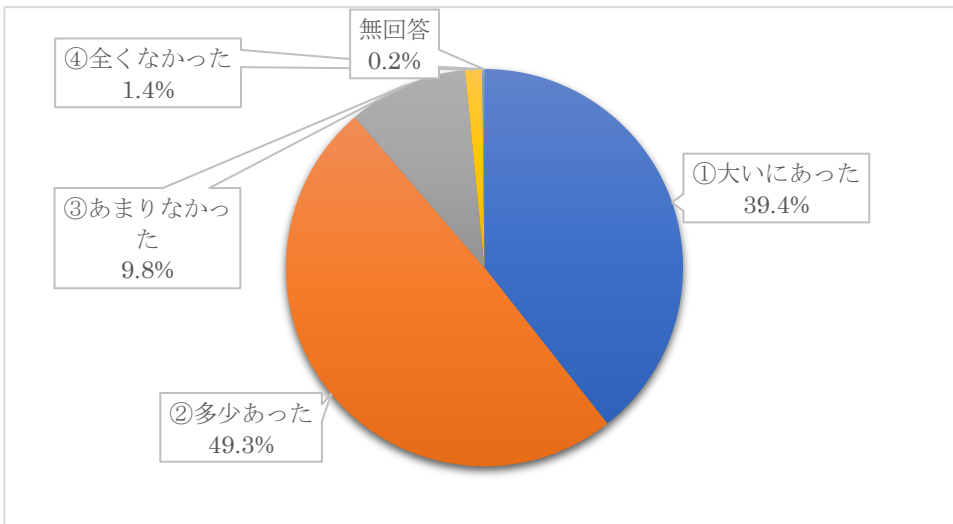


n = 16

※ n (=回答者数) に対する割合

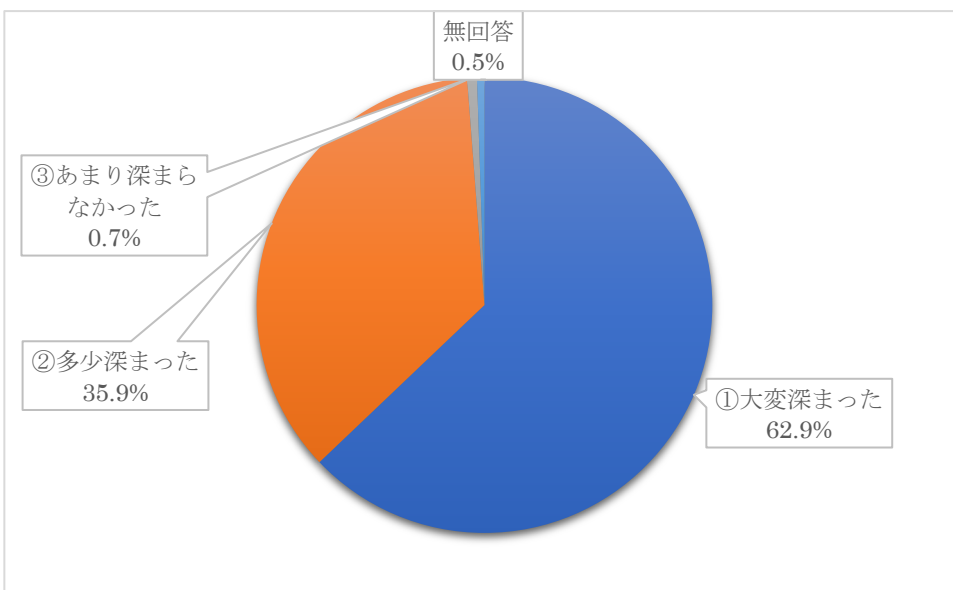
5-1. 今回のシンポジウム以前に、ハンセン病問題についてどのくらい関心がありましたか。

1	① 大いにあった	226 人
2	② 多少あった	283 人
3	③ あまりなかった	56 人
4	④ 全くなかった	8 人
	無回答	1 人
	計	574 人



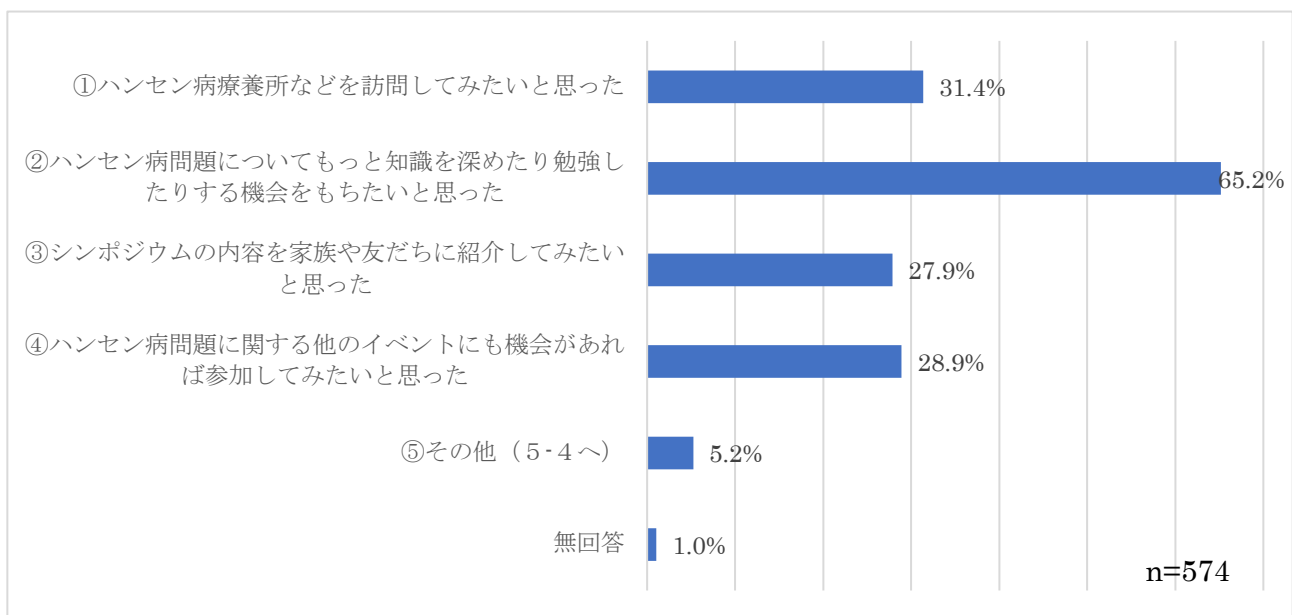
5-2. シンポジウムを終えて、ハンセン病問題についての理解が深まりましたか。

1	① 大変深まった	361 人
2	② 多少深まった	206 人
3	③ あまり深まらなかった	4 人
4	④ 全く深まらなかった	0 人
	無回答	3 人
	計	574 人



5-3. シンポジウムを視聴して、ハンセン病問題に関して考えに変化はありましたか。(複数回答可)

1	① ハンセン病療養所などを訪問してみたいと思った	180人
2	② ハンセン病問題についてもっと知識を深めたり勉強したりする機会をもちたいと思った	374人
3	③ シンポジウムの内容を家族や友だちに紹介してみたいと思った	160人
4	④ ハンセン病問題に関する他のイベントにも機会があれば参加してみたいと思った	166人
5	⑤ その他	30人
	無回答	6人
	計	916人

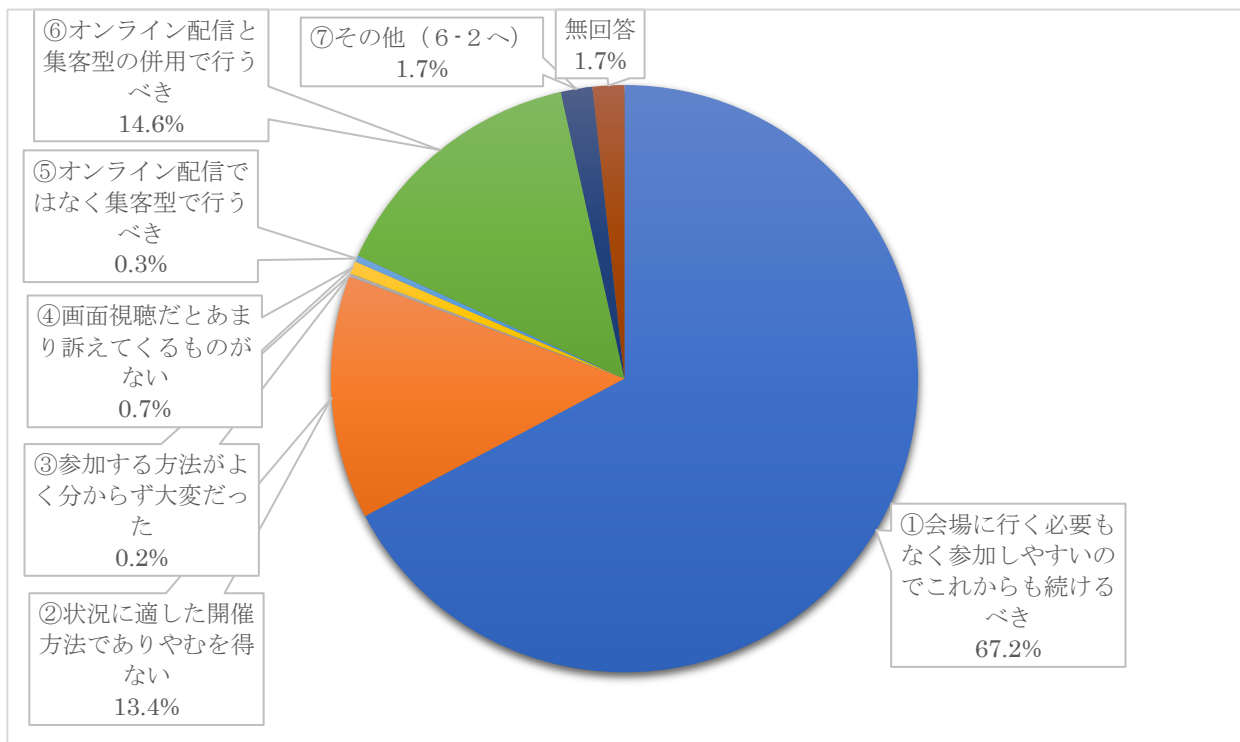


n = 574

※ n (=回答者数) に対する割合

6-1. シンポジウムのオンライン開催について、どう思いますか。

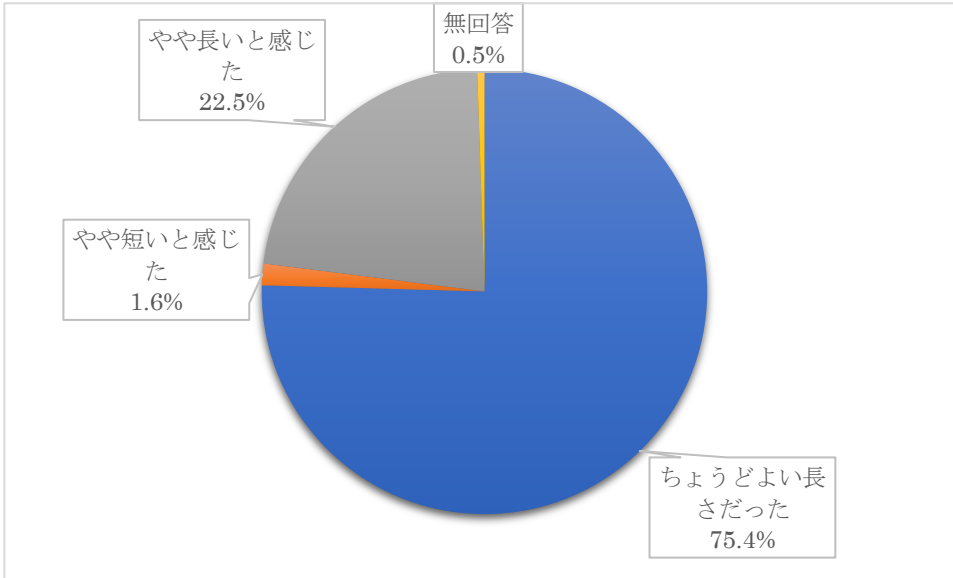
1	① 会場に行く必要もなく参加しやすいのでこれからも続けるべき	386人
2	② 状況に適した開催方法でありやむを得ない	77人
3	③ 参加する方法がよく分からず大変だった	1人
4	④ 画面視聴だとあまり訴えてくるものがない	4人
5	⑤ オンライン配信ではなく集客型で行うべき	2人
6	⑥ オンライン配信と集客型の併用で行うべき	84人
7	⑦ その他	10人
	無回答	10人
	計	574人



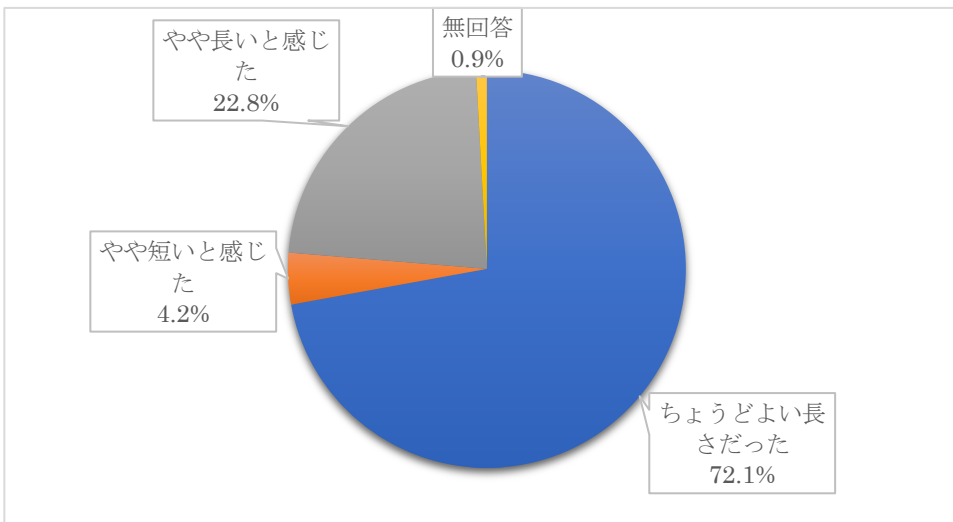


7.各プログラムの時間についてどう思ったか、最も当てはまるものを選択してください。

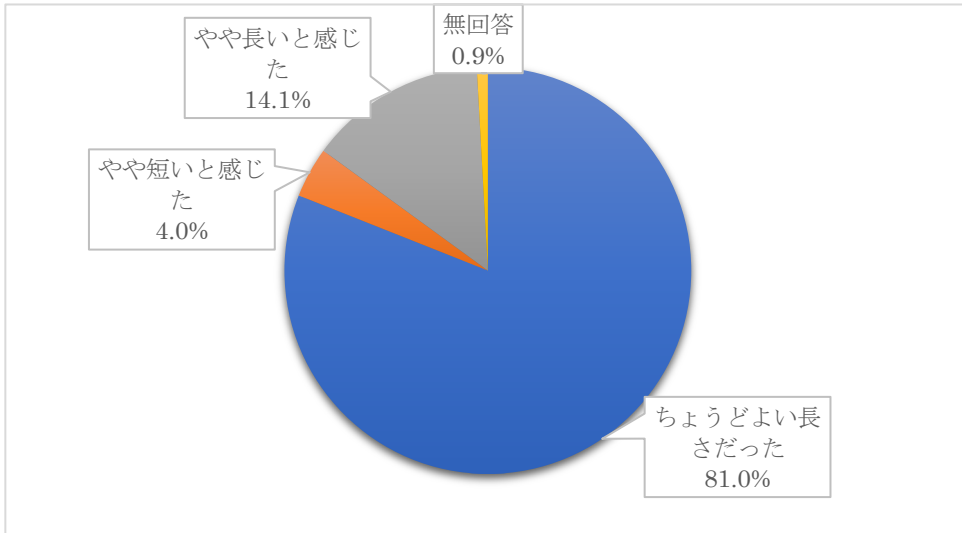
[基調講演]		
1	ちょうどよい長さだった	433人
2	やや短いと感じた	9人
3	やや長いと感じた	129人
	無回答	3人
	計	574人



[パネルディスカッション]		
1	ちょうどよい長さだった	414人
2	やや短いと感じた	24人
3	やや長いと感じた	131人
	無回答	5人
	計	574人

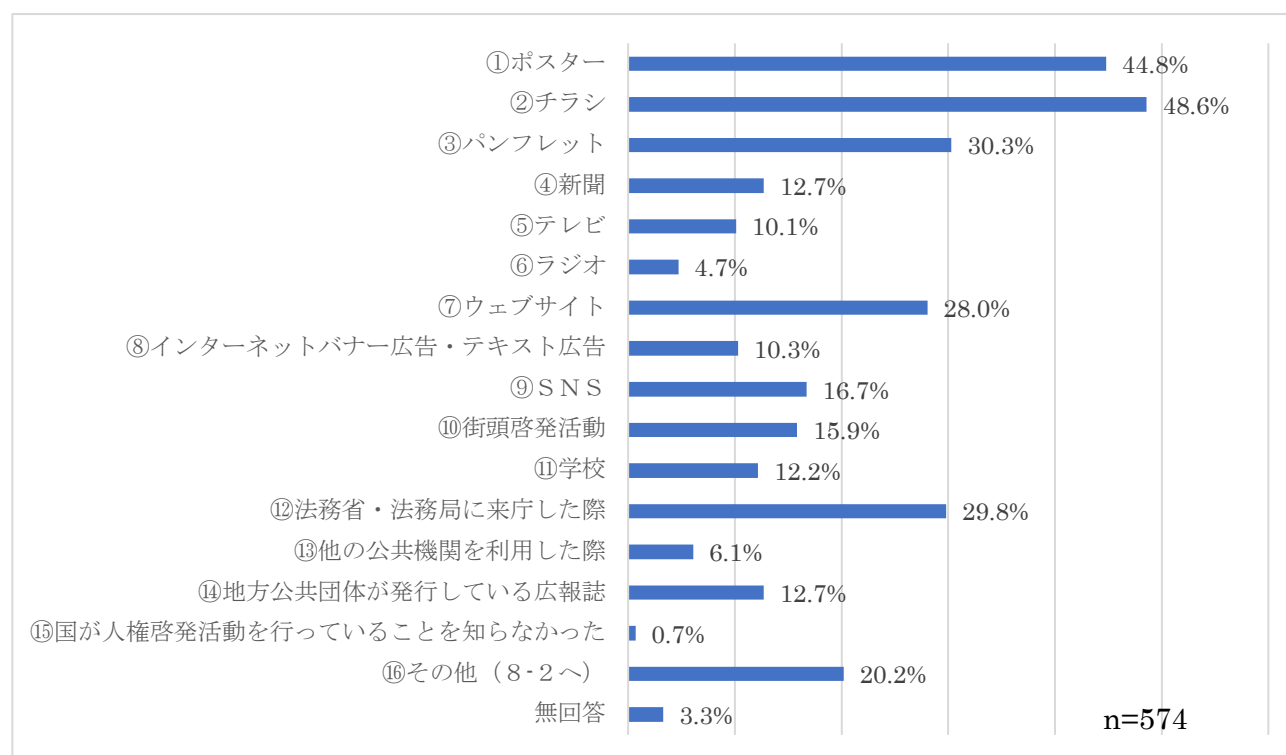


[ビデオメッセージ]		
1	ちょうどよい長さだった	465人
2	やや短いと感じた	23人
3	やや長いと感じた	81人
	無回答	5人
	計	574人



8-1.本シンポジウムなど、国の人権擁護機関（法務省・法務局・人権擁護委員）は、広く人権啓発活動を行っています。国の人権擁護機関が人権啓発活動を行っていることをご存じの場合、どのようにして知りましたか。（複数回答可）

1	① ポスター	257人
2	② チラシ	279人
3	③ パンフレット	174人
4	④ 新聞	73人
5	⑤ テレビ	58人
6	⑥ ラジオ	27人
7	⑦ ウェブサイト	161人
8	⑧ インターネットバナー広告・テキスト広告	59人
9	⑨ SNS	96人
10	⑩ 街頭啓発活動	91人
11	⑪ 学校	70人
12	⑫ 法務省・法務局に来庁した際	171人
13	⑬ 他の公共機関を利用した際	35人
14	⑭ 地方公共団体が発行している広報誌	73人
15	⑮ 国が人権啓発活動を行っていることを知らなかった	4人
	⑯ その他	116人
	無回答	19人
	計	1763人



n = 574

※ n (=回答者数) に対する割合

読売中高生新聞 248×376.5

**広告**

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

# 正しい知識を身に付けて 偏見や差別のない社会へ

**明るい未来を作るためにハンセン病問題を考える**

7月30日に「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」がオンラインで開催されました。ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見・差別は、今なお社会に根深く残っています。この偏見・差別を解消するためには、ハンセン病問題に関する正しい知識と、患者・元患者や家族の方々が置かれている現実への理解、そしてそれらを次世代へも継承していく必要があります。ハンセン病問題に関わってこられた方々や当事者の方々の声を聴き、親子で人権について考えてみませんか？

**ハンセン病とは？**

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気です。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあります。しかし、らい菌の感染力は弱く、発病することは極めてまれです。また、万が一発病しても、現在は早期発見と適切な治療により、後遺症が残ることなく完治します。

**基調講演**

**未来へと記憶をつなぐ**

74年前、14歳だった私は、岡山県にある国立療養所・長島愛生園に入所しました。そこで初めて食べた夕食は、どんぶりにジャガイモが1つだけ。非常に空腹を感じましたが、先輩の入所者たちには「いい時に来たな」と褒められました。先輩たちは、それほど厳しい生活を送っていたのです。

入所してから数年が経った頃、兄に子どもができましたが、兄からは「子どもが大きくなるまで家に帰らないでくれ」と言われました。また、母が亡くなる少し前、病院へのお見舞いすらさせてもらえませんでした。ハンセン病の息子を、人前に出すのがばかられたのでした。家族までそのようにしてしまったのは一体誰でしょうか。

そして、ハンセン病が治る病気とされてから70年が経つ今でも、偏見・差別は続いています。

**パネルディスカッション**

**交流の中で考えを深める**

- **悲しい歴史を繰り返さない**

小西 祥生さん  
高3 全国中学生人権作文コンテスト 第40回大会記念賞 受賞者

小学生の頃、学校で、地域学習の一環としてハンセン病について学ぶ機会がありました。その後、社会見学で邑久光明園を訪れた際に、入所者の方に温かく迎えていただいたこと、そして、ご自身のつらい経験を丁寧に説明して下さったことをはつきりと覚えています。この悲しい歴史を繰り返しては行けないと強く思いました。
- **レッテルを張らず対話する**

後藤 泉稀さん  
高3 全国中学生人権作文コンテスト 読者大賞 受賞者

中学校の部活動で療養所を訪れたのがハンセン病問題と出会ったきっかけです。入所者の方との交流を重ねていく中で、他者を病名などでカテゴライズせず、一人の人間同士として交流することの大切さを学びました。偏見・差別をなくすためには、他者の痛みを想像し、人を排除する側に立っていないか、内省する必要があると思います。
- **行動の指針を持つことが大切**

森 玲雄さん  
日本学生支援機構研究奨励金 社会的実践型 研究奨励金 受賞者

新型コロナウイルス感染症が流行する中で、感染者や治療にあたる人を過度に遠ざけたり、差別的言動が向けられる事態が起きてきました。こうした状況は、ハンセン病問題と共通する部分があります。身を守ろうとする心が、感染に関連づく「人」を忌避する態度にすり替わってしまいがちな働きを知り、どう行動すべきかを考えてみましょう。
- **長い負の歴史を忘れない**

坂元 茂樹さん  
公益財団法人 人権教育啓発推進センター 理事長

日本はハンセン病患者の強制隔離を89年間も続けていた負の歴史を持っており、残念ながら今でも偏見・差別の問題は続いています。私たちは誰も、意図せずに偏見・差別をする側になり得ることを忘れてはなりません。同じ過ちを繰り返さないために、私たちはハンセン病問題について学び続ける必要があるのです。

**基調講演**

**誤った情報が広まる怖さ**

私は32歳の時、昭和49年にハンセン病と診断されました。そのことを家族に伝えると、みんな気持ちが沈み切った様子になってしまったことを覚えています。そして、私は国立療養所・邑久光明園に入所しました。

現在は「ハンセン病は遺伝しない、感染しにくい、治る」という事実が知られています。「親子防法」（旧法）が公布された昭和6年頃にも、「ハンセン病は感染しにくい」ということを発表した専門家はいました。しかし、彼は異端者扱いされました。そして、患者を療養所に強制入所させる法律があったために、「ハンセン病は感染力が強い病気だ」という誤った情報が流布され、人々の頭に植え付けられていったのだと思います。

悲しいことに、私と同じ年代の方の中には、いまだにハンセン病を正しく理解していない方もいます。このような法律が89年間存在し続けた影響は、今も無くなっていないのです。

だからこそ、今を生きる子どもたちには、ハンセン病問題について正しく理解してもらいたいと思います。そして、次の世代にも正しい知識を伝えていってください。

**ビデオメッセージ**

- **家族をバラバラにしないで**

国立療養所長島愛生園 入所者自治会会長 壁山 勲さん

母と私がハンセン病を患ったことで、家族は離ればなれにされてしまいました。私が強制隔離されたのは13歳のときです。療養所では、もっと小さな子が両親を想って泣いていて、彼らを抱きしめながら寝たものです。人が人として生きるのが国民の権利です。親と子が引き裂かれるような事は二度とあってはなりません。
- **関心を持ち続けてほしい**

全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所 大島島松園入所者自治会会長 森 和男さん

らい予防法が廃止されて26年が経ち、ハンセン病問題に対する社会の関心が薄れてきたと感じています。そして新型コロナウイルス感染症の流行により、感染者や医療従事者に対する誹謗中傷が発生してしまつたことを、非常に悲しく思います。私たちが生きている間に、あらゆる偏見・差別が解消されるよう願います。
- **ハンセン病について話せる社会に**

ハンセン病家族訴訟原告代表 原告番号169番さん

私の父と兄は、ハンセン病患者でした。しかし、親族にまで偏見・差別が及ぶのを恐れ、私はこれまで家族の話を夫以外には明言し、聞けられずに生きてきました。「偏見・差別の解消」とは、問題が忘れられることではなく、ハンセン病について、誰にも気兼ねせず自由に話せるようになることだと思います。

**知っていますか？**

「子どもの人権110番」  
いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してください。

【インターネット人権相談】  
インターネットでも人権相談を受け付けています。

子どもの人権110番 ☎ 0120-007-110  
みんなの人権110番 ☎ 0570-003-110  
女性の人権ホットライン ☎ 0570-070-810

インターネット人権相談 検索

外国人のための人権相談: <https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html>  
法務省人権擁護局ホームページ: <https://www.moj.go.jp/JINKEN>  
YouTube 法務省チャンネル: <https://www.youtube.com/MOJchannel>  
YouTube 人権チャンネル: <https://www.youtube.com/jinkenchannel>  
人権ライブラリー: <https://www.jinken-library.jp>

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会

**人権啓発動画**

**ハンセン病問題を知る  
～元患者と家族の思い～**

隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病患者やその家族のエピソードをアニメーション化。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための啓発映像です。

映像はこちらから  
【[https://youtu.be/gPH5b\\_CDwto](https://youtu.be/gPH5b_CDwto)】

朝日中高生新聞 245×373

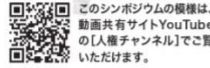
ハンセン病問題に関する「親子のシンポジウム」

# 正しい知識を身に付けて 偏見や差別のない社会へ

広告

## 明るい未来を作るためにハンセン病問題を考える

7月30日に「ハンセン病問題に関する親子のシンポジウム」がオンラインで開催されました。ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見・差別は、今なお社会に根深く残っています。この偏見・差別を解消するためには、ハンセン病問題に関する正しい知識と、患者・元患者や家族の方々が置かれている現実への理解、そしてそれらを次世代へも継承していくことが必要です。ハンセン病問題に関わってこれた方々や当事者の方々の声を聴き、親子で人権について考えてみませんか？



このシンポジウムの模様は、動画共有サイトYouTubeの「人権チャンネル」でご覧いただけます。  
<https://www.youtube.com/jinkenchannel>

### ハンセン病とは？

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気です。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあります。しかし、らい菌の感染力は弱く、発病することは極めてまれです。また、万が一発病しても、現在は早期発見と適切な治療により、後遺症が残ることなく完治します。

### 基調講演

#### 未来へと記憶をつなぐ

74年前、14歳だった私は、岡山県にある国立療養所・長島愛生園に入所しました。そこで初めての夕食は、どんぶりにジャガイモが1つだけ。非常に空腹を感じましたが、先輩の入所者たちには「いい時に来たな」と羨ましがられました。先輩たちは、それほど厳しい生活を送っていたのです。

入所してから数年経った頃、兄に子どもが生まれましたが、兄からは「子どもが大きくなるまで家に帰らないでくれ」と言われました。また、母が亡くなる少し前、病院へのお見舞いすらさせてもらえませんでした。ハンセン病の息子を、人前に出すのがはかれるのではありません。家族までそのようなしてしまったのは一体誰でしょうか。

そして、ハンセン病が治る病気とされてから70年が経つ今でも、偏見・差別は続いています。



国立療養所長島愛生園入所者自治会会長  
中尾 伸治さん

また、近年の新型コロナウイルス感染症の流行下においても、感染者や医療従事者に対する偏見・差別が起きてしまいました。

これ以上過ちを繰り返さないためには、未来へと記憶を継承することが大切です。そこで、瀬戸内3県\*では、療養所がある各島を「人権学習の島」として残すための運動をしています。皆さんもハンセン病問題について学び続け、人権問題に対する理解を深めてください。

\*長島愛生園、邑久光明園、大島青松園の総称。

### パネルディスカッション

#### 交流の中で考えを深める

##### ● 悲しい歴史を繰り返さない

小学生の頃、学校で、地域学習の一環としてハンセン病について学ぶ機会がありました。その後、社会見学で邑久光明園を訪れた際に、入所者の方に温かく迎えていただいたこと、そして、ご自身のつらい経験を丁寧に説明して下さったことをはつきりと覚えていました。この悲しい歴史を繰り返しては行けないと強く思いました。

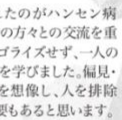
小西 祥生さん



##### ● レッテルを張らず対話する

中学校の部活動で療養所を訪れたのがハンセン病問題と出会ったきっかけです。入所者の方々と交流を重ねていく中で、他者を病名などでカテゴライズせず、一人の人間同士として交流することの大切さを学びました。偏見・差別をなくすためには、他者の痛みを想像し、人を排除する圈に立っていないか、内省する必要があると思います。

後藤 泉稀さん



##### ● 行動の指針を持つことが大切

新型コロナウイルス感染症が流行する中で、感染者や治療にあたる人を過度に遠ざけたり、差別的言動が向けられる事態が起きてきました。こうした状況は、ハンセン病問題と共通する部分があります。身を守ろうとする心が、感染に関連する「人」を忌避する態度にすり替わってしまいがちな心の働きを知り、どう行動すべきかを考えてみましょう。

森光 玲雄さん

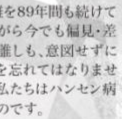


### コーディネーター

##### ● 長い負の歴史を忘れない

日本はハンセン病患者の強制隔離を89年間も続けていた負の歴史を持っており、残念ながら今でも偏見・差別の問題は続いています。私たちは誰しも、意図せずに偏見・差別をする側になり得ることを忘れてはなりません。同じ過ちを繰り返さないために、私たちはハンセン病問題について学び続ける必要があるのです。

坂元 茂樹さん



### 基調講演

#### 誤った情報が広まる怖さ

私は32歳の時、昭和49年にハンセン病と診断されました。そのことを家族に伝えると、みんな気持ちが沈み切った無言になってしまったことを覚えています。そして、私は国立療養所・邑久光明園に入所しました。

現在は「ハンセン病は遺伝しない、感染しにくい、治る」という事実が知られています。「継子防法」(旧法)が公布された昭和6年頃にも、「ハンセン病は感染しにくい」ということを発表した専門家はいました。しかし、彼は異端者扱いされました。そして、患者を療養所に強制入所させる法律があったために、「ハンセン病は感染力が強い病気だ」という誤った情報が流布され、人々の頭に植え付けられていったのだと



国立療養所邑久光明園入所者自治会会長  
屋 猛司さん

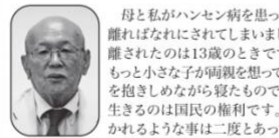
思います。

悲しいことに、私と同じ年代の方の中には、いまだにハンセン病を正しく理解していない方もいます。このような法律が89年間存在し続けた影響は、今も無くなっていないのです。だからこそ、今を生きている子どもたちには、ハンセン病問題について正しく理解してもらいたいと思います。そして、次の世代にも正しい知識を伝えていってください。

### ビデオメッセージ

#### ● 家族をバラバラにしないで

ハンセン病患者家族協議会代表 全国国会議員 事務局長 壁山 勲さん



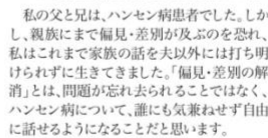
#### ● 関心を持ち続けてほしい

全国ハンセン病療養所入所者協議会会長、国立療養所 大島青松園入所者自治会会長 森 和男さん



#### ● ハンセン病について話せる社会に

ハンセン病家族訴訟原告代表 原告番号169番さん



知っていますか？  
「子どもの人権110番」  
いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してください。

子どもの人権 110番 ☎ 0120-007-110  
みんなの人権 110番 ☎ 0570-003-110  
女性の人権ホットライン ☎ 0570-070-810

#### 「インターネット人権相談」

インターネットでも人権相談を受け付けています。



パソコン・携帯電話・スマートフォン共通 <https://www.jinken.go.jp>

インターネット人権相談 検索

- 外国人のための人権相談: <https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html>
- 法務省人権擁護局ホームページ: <https://www.moj.go.jp/JINKEN>
- YouTube 法務省チャンネル: <https://www.youtube.com/MOJchannel>
- YouTube 人権チャンネル: <https://www.youtube.com/jinkenchannel>
- 人権ライブラリー: <https://www.jinken-library.jp>

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会



### 人権啓発動画

#### ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～

隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病患者やその家族のエピソードをアニメーション化。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための啓発映像です。

映像はこちらから  
【[https://youtu.be/gPH5b\\_CDwto](https://youtu.be/gPH5b_CDwto)】

